資料№２

平成２１年度
酪農教育ファーム活動状況（中間報告）

平成２１年１０月２６日（月）

酪農教育ファーム推進委員会

社団法人中央酪農会議

酪農教育ファーム

1. 酪農教育ファーム認証申請及び認証研修会

■ファシリテーター・牧場の認証募集期間：

9月16日～12月18日

●認証募集については、指定団体に案内するとともに、業界誌（DAIRY MAN、Dairy Japan）、業界紙（全酪新報）等を通じて広く酪農家・関係者に告知。

■認証研修会については、①1月21日～22日（東京）、②2月2日～3日（大阪）、③2月16日～17日（帯広）、3箇所で開催予定（1泊2日）。

2. 酪農教育ファーム現地審査及び審査委員会

■ファシリテーター及び牧場の認証申請に応じて、地域推進委員会･指定団体を中心に現地審査をおこなう。(9月～12月)

■審査委員会を1月8日(金)に開催予定。

平成２１年度 酪農教育ファーム認証審査委員会　委員名簿

※順不同、敬称略

氏　名	所属・役職等
西田　敦子	全国退職女性校長会　副会長
林　克郎	千葉県酪農農業協同組合連合会　参与
松下　克己	松下牧場（静岡県）
長谷川　隆	千葉県農業共済組合連合会　家畜部保険課　課長
前田　浩史	社団法人中央酪農会議　事務局長

3. 酪農教育ファーム活動の教育的効果に関する社会的認知の促進

■目的：酪農教育ファーム活動の学習目標である「食といのちの学び」が、酪農体験学習活動を通じてどの程度実現しているのかについて、体験のメニューや教育的支援との関係で検証するとともに、学習目標の高い到達度を実現するための学びのメカニズムを事例のなかから抽出し、モデル的なカリキュラム（体験メニューと教育的支援の在り方）の基本的な考え方を整理することを目的とする。

■上記を目的として、酪農教育ファーム活動の教育的効果の検証に関する調査研究を行う者を公募し、公募の結果、広島大学角屋教授をリーダーとする研究グループに調査研究を委託した。（7月）

●研究グループの構成メンバー

・広島大学大学院教育学研究科　角屋重樹教授（リーダー）
・北海道教育大学釧路校　玉井康之教授
・宮城学院女子大学児童教育学科　佐藤幸也教授
・愛知教育大学生活科教育講座　野田敦敬教授
・福岡教育大学生活総合教育講座　津川裕教授
・大妻女子大学家政学部児童学科　石井雅幸准教授（研究グループ窓口）

4．モデル牧場の指定と地域活動、情報収集拠点としての活用

■先進的な活動を行う認証牧場をモデル牧場として指定し（全国で27牧場）、地域活動、事例研究、情報収集拠点として活用。

■事業の狙いを徹底させるために、当該牧場を対象に事業説明会を8月31日に開催した。

●平成２１年度モデル牧場●

地域	牧場名	〒番号	住所
北海道	リバティヒル広瀬牧場	080-2473	北海道帯広市西23条南6丁目13番地
	むらかみ牧場	061-1405	北海道恵庭市戸磯156番地
	小川牧場	098-5702	北海道枝幸郡浜頓別町豊寒別
	レークランドファーム久保牧場	093-0731	北海道紋別郡湧別町芭露126
東北	くずまき高原牧場	028-5402	岩手県岩手郡葛巻町葛巻40-57-125
	南蔵王不忘高原牧場	989-0733	宮城県白石市福岡八宮字不忘山7-1
	山川牧場	999-3114	山形県上山市永野2191-23
	郡山石筵ふれあい牧場	963-1301	福島県郡山市熱海町石筵字萩岡2番2
	ABITANIAジャージーファーム	038-2702	青森県西津軽郡鰺ヶ沢町建石町大曲225-2
関東	体験館"TRY"TRY"TRY"	325-0114	栃木県那須塩原市戸田74-2
	関口牧場	240-0101	神奈川県横須賀市長坂4-13-55
	小泉牧場	178-0061	東京都練馬区大泉学園町2-7-16
	吉田牧場	368-0111	埼玉県秩父郡小鹿野町飯田1744-1
	松下牧場	418-0101	静岡県富士宮市根原221
北陸	新川育成牧場	938-0864	富山県黒部市宇奈月町栃屋字広谷4
東海	清水牧場	448-0813	愛知県刈谷市小垣江町明門89-1
	N．D，ファーム	441-8124	愛知県豊橋市野依町字東山8－5
	大井牧場	501-6327	岐阜県羽島市桑原町西小薮2-333
	渡邉牧場	519-0313	三重県鈴鹿市追分町2208－13
近畿	おおさか府民牧場	563-0364	大阪府豊能郡能勢町平野110
	西山牧場	673-1243	兵庫県三木市吉川町豊岡427
中国	やまね牧場	739-1805	広島県安芸高田市高宮町原田1378
四国	広野牧場	761-0821	香川県木田郡三木町鹿庭215
	岡崎牧場	780-0974	高知県高知市円行寺129
九州	（有）ナカシマファーム	849-1421	佐賀県嬉野市塩田町真崎1488
	（有）阿部牧場	869-2302	熊本県阿蘇市三久保47-1
	山の牧場	899-0341	鹿児島県出水市上大川内2553

5. 酪農教育ファーム活動の経済的自立に関する事例研究と認証牧場への指導

■目的：酪農経営の1部門としての酪農教育ファーム活動の経済的自立（市場確立）の条件を明らかにし、その調査結果を普及するとともに、認証牧場への指導に活用し、また、酪農経営の多角化にむけた経営的支援策のあり方を整理することを目的とする。

■上記を目的として、酪農教育ファーム活動の経済的自立に関する調査研究を行う者を公募し、公募の結果、千葉大学大江教授をリーダーとする研究グループに調査研究を委託した。（7月）なお、研究グループの窓口は千葉大学大学院園芸学研究科。

6．ファシリテーターに対するスキルアップ研修会①

■目的：酪農教育ファームファシリテーターが、酪農教育ファーム活動の現状把握と確認をおこなうとともに、酪農体験学習活動における教育的効果の発現の仕方などについて学び、酪農教育ファーム活動の質をより一層高めることを目的とする。

■9月19日（東京・39名参加）、10月13日（札幌・20名参加）、11月2日（博多・20名参加予定）、の3箇所で開催。

■時間：11時～15時

※酪農教育ファームファシリテーターの認証要件として、3年に1回のスキルアップ研修会の受講が義務付けられていることから、酪農教育ファームファシリテーターが全員受講できるよう、ショートプログラムの研修会を開催。

6．ファシリテーターに対するスキルアップ研修会②

■プログラム

●オリエンテーション

研修会のねらいやプログラムの内容、酪農教育ファーム活動の現状と課題、活動ツールなどを説明。

●実践/子どもたちの酪農体験をビデオで見る

酪農家が行う酪農体験学習の場面（埼玉　吉田牧場）をビデオで見る。

＊学びの3つの視点＊

①「子どもたちを集中して聞かせたり、学習意欲（モチベーション）を高めたりするために、どのような工夫をしているのか」

⇒話の間の取り方や立ち位置など

②「子どもたちに実感やイメージを持たせるために、どのような工夫をしているのか」

⇒諸感覚で感じさせる体験の内容やツール（紙芝居、胃や子牛のパネルなど）を使っての伝え方など

③「子どもたちの理解を深めるために、どのような工夫をしているのか」 ⇒「例え」や「比較」をしながらの伝え方など

●ワークショップ

「教師と酪農家によるワークショップ－子供たちの気づきと学びを促す酪農家の支援とは？－」

テーマに沿った内容で、司会者進行のもと参加者によるグループワークを行う

＊講師＊

・愛知教育大学生活科教育講座教授　野田敦敬氏（9/19、10/13）

・新宿区立東戸山小学校校長　國分重隆氏（11/2）

・酪農家・埼玉　吉田恭寛氏（9/19、10/13）

・酪農家・埼玉　吉田英子氏（11/2）

●まとめ

7. モデルカリキュラムの開発と提供

■酪農教育ファーム活動のなかで、教育的効果はどのようなメカニズムで発揮されるのか、どのような体験学習のメニューを選択的集中的に行うことが良いのかなどを具体的に整理したモデルカリキュラムを開発する。なお、モデルカリキュラムについては、教育効果の検証作業と関連付けながら、22年度中の提供を目標に開発を進める。

■3. 酪農教育ファーム活動の教育的効果に関する社会認知の促進と併せて、調査研究を委託。

8. 教科横断的学習教材の開発と提供

■目的:「酪農」や「牛乳」を学習の中心におき、そこからさまざまな教科への発展を考える教科横断的な教材を開発することによって、酪農教育ファーム活動の教育的要素を学校現場に提案することを目的とする。

■上記を目的として、教科横断的学習教材の開発・制作等を行う者を公募し、公募の結果、複数の教育関係者・ファシリテーターによる制作チームに開発を委託した。(7月)

●制作チームの構成メンバー

・国士舘大学こどもスポーツ教育学科　北俊夫教授(リーダー)
・新宿区立東戸山小学校　國分重隆校長
・豊島区立長崎小学校　中村雅子校長
・あきる野市立前田小学校　亀山桂子副校長
・千代田区立番町小学校　伊勢明子教諭
・荒川区立尾久小学校　杉山奈美栄養士
・松下牧場(静岡県)　松下克己ファシリテーター
・清水牧場(愛知県)　清水ほづみファシリテーター

9. 全国推進委員会等の開催①

平成21年度酪農教育ファーム推進委員名簿

※順不同、敬称略

	氏 名	所属･役職等
1	羽豆 成二	帝京短期大学生活科学科 前教授
2	角屋 重樹	広島大学大学院教育学研究科 教授
3	石井 雅幸	大妻女子大学家政学部児童課 准教授
4	國分 重隆	東京都新宿区立東戸山小学校 校長
5	大江 靖雄	千葉大学大学院園芸学研究科 教授
6	岩田 三代	日本経済新聞社編集局生活情報部 論説委員
7	木島 俊行	明治乳業株式会社 酪農部 部長
8	田村 学	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
9	村上 隆彦	むらかみ牧場（北海道）
10	吉田 恭寛	吉田牧場 牧場のログハウスちちぶ路（埼玉県）
11	藤田 毅	地域交流牧場全国連絡会 会長［フジタファーム（新潟県）］
12	板東 寛之	ホクレン農業協同組合連合会 参事･酪農畜産事業本部長
13	赤尾 學	東海酪農業協同組合連合会 代表理事専務
14	菊川 時彦	四国生乳販売農業協同組合連合会 常務理事

■平成21年度第1回推進委員会は10月26日に開催。第2回委員会を3月に開催予定。

■全国推進委員会と地域推進委員会、地域推進委員会間の連携を強化するため、酪農教育ファーム地域推進委員会委員長合同会議を 5月15日に開催した。

■推進委員会で決定された酪農教育ファーム活動事業計画のうち、専門的な作業や支援等が必要な事業の具体的な企画及びその推進方法について検討するため、酪農教育ファーム専門委員会を6月21日に開催した。

■地域での活動計画を策定し推進するため、全国9地域で地域推進委員会が開催されている。なお、都府県推進委員会の設置について、各地で推進中である。

9. 全国推進委員会等の開催②

平成21年度酪農教育ファーム専門委員名簿

※順不同･敬称略

氏 名	所属･役職等
角屋 重樹	広島大学大学院教育学研究科 教授
大江 靖雄	千葉大学大学院園芸学研究科 教授
國分 重隆	東京都新宿区立東戸山小学校 校長
石井 雅幸	大妻女子大学家政学部児童学科 准教授
吉田 恭寛	吉田牧場 牧場のログハウスちちぶ路（埼玉県）
村上 隆彦	むらかみ牧場（北海道）
清水 ほづみ	清水牧場（愛知県）
吉村 信子	吉村牧場 ミルキーファーム（福岡県）

平成21年度酪農教育ファーム全国･地域推進委員会委員長名簿

※順不同･敬称略

氏 名	所属･役職等	地 域
羽豆 成二	帝京短期大学生活科学科 前教授	全国
廣瀬 文彦	リバティヒル広瀬牧場	北海道
伊藤 房雄	東北大学大学院農学研究科 准教授	東北
小林 信一	日本大学生物資源科学部教授 畜産経営学研究室	関東
藤田 毅	有限会社フジタファーム	北陸
伊藤 立	デイリーパラダイス	東海
花房 享一郎	フラワーステーションファーム花房牧場	近畿
沖 正文	トムミルクファーム	中国
広野 正則	広野牧場	四国
尾場瀬 優一	鹿児島県三島村立方泊小学校校長	九州

10. 酪農家と教師の「出会いの場」作りのための研修会や情報交換会の開催

■酪農教育ファーム地域推進委員会が主体になって、地域ごとに、認証牧場・ファシリテーターと教育関係者との「出会いの場」としての、共同の研修会や研究会、情報交換会を開催している。

●教育関係者を対象とした酪農体験活動研修会（各地域で合計20箇所程度予定）

●栄養教諭を目指す学生向け研修会（8月18日～19日・北海道恵庭）

●出前授業実施校の先生のための酪農体験研修会（7月17日～18日・埼玉県秩父）

11. 教育関係者ネットワークへの支援①

■全国で酪農教育ファーム活動を実施する学校関係者や、今後、実施する希望や意向がある教育関係者（教育学部学生を含む）の経験交流及び研究活動並びにこれらの活動の成果を共有化するためのセミナーを開催し、教育関係者のネットワーク活動を支援する。

■8月22日（博多・参加者71名）、12月5日（札幌・100名程度参加予定）、2箇所で開催。

■開催にあたっては、公募の結果、日本教育新聞社に委託し、日本教育新聞等で広く告知を実施。

11. 教育関係者ネットワークへの支援②

■教育セミナー（8月22日、博多開催）概要：

●主題：「牧場が持つ教育力」で生きる力をはぐくむ

●副題：新学習指導要領での具体的な実践に向けて

●目的：平成23年度からスタートする新学習指導要領を意識して、酪農体験を通して「食」「いのち」「勤労」の学びや、体験で育まれる思考力・判断力・表現力や言語力などの教育的効果につながることを、基調講演、実践発表、グループワークなどから学校教育関係者に知ってもらう。また、学校における実際の取り組みに酪農体験を活用していただき、学校教育における裾野を広げていくための教育関係者の新たなネットワークづくりを目的とする。

＊講師＊

・角屋重樹（広島大学大学院教育学研究科教授）

・廣田順子（熊本県合志市立合志南小学校）、佐藤哲朗（熊本県人吉市立人吉東小学校）

・大薮裕美子（酪農家・オオヤブデイリーファーム）

・田村学（文部科学省 初等中等教育局教育課程課教科調査官）

☆12月5日教育セミナー概要　⇒別添チラシ参照

12. 感動通信の発行

■教育関係者やファシリテーター等に対して、教育効果や教育的な視点、実際の活動の優れた事例、教育現場の動向等などの酪農教育ファーム活動に係る幅広い情報を、「感動通信」(年4回発行)等を通じて提供。

■7月号(6月末発刊)、10月号(9月末発刊)を各5,000部発行。教育関係者やファシリテーター、関係者等に送付。

１３．認証牧場に対する現地調査･指導

■認証牧場における酪農体験学習のための安全な活動環境を整備するとともに、活動現場の多様な課題などの把握、個別課題への必要な支援を行うため、地域推進委員会を主体に現地調査･指導がおこなわれている。

■今年度は６０牧場程度、現地調査･指導のために巡回予定。

14. 食育推進全国大会への出展

■酪農教育ファーム活動の普及を図るため、『酪農家と学ぶ牧場の「食」と「いのち」』と題して、第4回食育推進全国大会（6月13日～14日、島根県松江市）へ出展した。

■牧場に対する好奇心、期待感を感じさせ、実際の酪農体験へとつなげられるよう、牧場をイメージさせるブース造作を行った。カッテージチーズ作り体験、バター作り体験を行い、身近な食文化に触れ、乳製品の優れた栄養価を再認識してもらう機会を設けた。また、ブース内をまわって正解を見つけるクイズラリーを実施し、解答を探す過程でブース内にいる酪農家との交流を図るようにし、酪農教育ファーム活動の普及を図った。

■大会当日2日間の来場者数は約1万3千人

15. 安全衛生管理強化対策

■酪農教育ファーム活動を安全かつ円滑に推進するため、認証牧場･ファシリテーター等に対して各種安全衛生管理強化対策を実施している。

■7月には、認証牧場に対して、安全衛生対策消耗品（手洗い石鹸、手･指用消毒液、ペーパータオル、ブーツカバー）の配付と併せて、安全衛生対策の周知徹底指導を実施した。

■地域単位で腸管出血性大腸菌O157保菌検査、研修会等を実施。